

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 7 部門第 1 区分

【発行日】平成 29 年 5 月 18 日 (2017.5.18)

【公開番号】特開 2016-110754 (P2016-110754A)

【公開日】平成 28 年 6 月 20 日 (2016.6.20)

【年通号数】公開・登録公報 2016-037

【出願番号】特願 2014-245074 (P2014-245074)

【国際特許分類】

H 0 1 B 7/18 (2006.01)

H 0 1 B 7/20 (2006.01)

H 0 2 G 3/04 (2006.01)

H 0 5 K 9/00 (2006.01)

F 1 6 L 9/02 (2006.01)

【F I】

H 0 1 B 7/18 D

H 0 1 B 7/20

H 0 2 G 3/04

H 0 5 K 9/00 L

F 1 6 L 9/02

【手続補正書】

【提出日】平成 29 年 3 月 29 日 (2017.3.29)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 1 1

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 1 1】

本発明のシールド導回路は、前記シールドパイプの先端部外周に取り付けられる環状取付部と、前記シールドパイプの先端面における前記第 1 挿通路の開口領域を全周に亘って包囲するように接続される筒状接続部とを有する接続部材を備えており、前記筒状接続部に前記可撓性シールド部材が接続されることで前記シールド筒が構成されていてもよい。

この構成によれば、接続部材を介すことにより、シールドパイプと可撓性シールド部材を接続すると同時に、シールド筒を構成することができる。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0 0 3 3】

遮蔽壁 4 3 は、可撓性シールド部材 1 2 のように金属素線を編み込んだ編組部材や、金属箔等からなる。遮蔽壁 4 3 の 1 つの縁部は、シールドパイプ 1 1 の先端面 1 7 のうち 2 つの第 1 挿通路 1 4 F と第 2 挿通路 1 4 S とを区画する第 2 仕切壁 1 5 S の全領域に亘って接続され、遮蔽壁 4 3 の他の縁部は、可撓性シールド部材 1 2 に接続されている。遮蔽壁 4 3 を接続する手段としては、溶接や接着等を用いることができる。

【手続補正 3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 3 9

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 3 9 】

上記実施例 2 のシールド導電路 W b では第 2 電線 2 0 S が可撓性シールド部材 1 2 の導出口 4 4 を貫通してシールド部 1 0の外部へ導出されていたのに対し、本実施例 3 のシールド導電路 W c は、シールドパイプ 1 1 の周壁部 1 6のうち第 2 挿通路 1 4 S を構成する第 2 周壁構成部 1 6 S に導出口 5 0 を形成し、第 2 挿通路 1 4 S に挿通した第 2 電線 2 0 S を、この導出口 5 0 からシールド部 1 0 外へ導出している。

【手続補正 4】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 0

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 4 0 】

また、実施例 2 と同様、シールドパイプ 1 1 の先端部外周には可撓性シールド部材 1 2 が固着されている。可撓性シールド部材 1 2 の一部は、曲げ変形され、第 2 挿通路 1 4 S の開口領域の全体を塞ぐようにシールドパイプ 1 1 の先端面 1 7 に接続されている。具体的には、可撓性シールド部材 1 2 は、シールドパイプ 1 1 の先端面 1 7 のうち第 1 挿通路 1 4 F と第 2 挿通路 1 4 S とを区画する第 2 仕切壁 1 5 S の全領域と、第 2 挿通路 1 4 S を構成する第 2 周壁構成部 1 6 Sの全領域に亘って接続されている。この可撓性シールド部材 1 2 とシールドパイプ 1 1 との接続部分は、半田 5 1 により離脱しないように固着されている。

【手続補正 5】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0 0 4 3

【補正方法】変更

【補正の内容】

【 0 0 4 3 】

本実施例 3 のシールド導電路 W c は、可撓性シールド部材 1 2 がシールドパイプ 1 1 の先端部外周に取り付けられ、第 2 電線 2 0 S が、第 2 挿通路 1 4 S を構成する第 2 周壁構成部 1 6 Sの導出口 5 0 を通ってシールドパイプ 1 1 の外周側へ導出されている。また、可撓性シールド部材 1 2 の一部が、シールドパイプ 1 1 の先端面 1 7 に対し、第 1 挿通路 1 4 F の開口領域の全体を包囲するように接続されている。そして、可撓性シールド部材 1 2 のうち第 1 挿通路 1 4 F に連通する筒状部分が、シールド筒 5 3 となっている。この構成によれば、第 2 電線 2 0 S がシールドパイプ 1 1 に形成した導出口 5 0 を通って外部へ導出されているので、可撓性シールド部材 1 2 には第 2 電線 2 0 S を導出させるための加工等が不要である。